

## 挑戦する大切さ 世羅中生が学ぶ バド栗原さん体験談



生徒の前でバドミントンのプレーを見せる栗原さん

世羅町寺町の世羅中で24日、バドミントン混合ダブルスでリオデジャネイロ五輪に出場した栗原文音さん(33)の特別授業があった。全校生徒160人は五輪選手の体験談を通じて、将来や挑戦する姿勢の大切さなどについて考えた。

栗原さんは「意志あるところに道がある」をテーマに講演。現役時代、けがで1年半プレーできない間に内面を見つめ直したことや、大会の10日前に未経験の混合ダブルスでの出場を打診され、挑戦したことが五輪につながったエピソードを紹介した。「今の自分に何ができるか考え、一

つずつクリアしてほしい。努力すれば全真夢がかなうわけではないが、その後の人生で返ってくる」と伝えた。

生徒と対戦形式でスマッシュなどオリンピックの技も披露した。3年の小西杏椀さん(15)は「進む道が見えなくても、できる努力を続けることが大事と思った。高校ではバドミントンをしたい」と話していた。  
(矢野匡洋)